



各位

平成 27 年 9 月 28 日

上場会社名 株式会社神戸製鋼所
 代表者 代表取締役社長 川崎 博也
 (コード番号 5406)
 問合せ先 秘書広報部長 安田 幸展
 (TEL 03-5739-6010)

連結業績予想の修正及び個別業績予想に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 27 年 7 月 28 日に公表した連結業績予想を下記の通り修正しましたのでお知らせいたします。

また、平成 28 年 3 月期(平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)の個別業績予想につきまして、今般その見通しを得ましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 28 年 3 月期第 2 四半期(累計)連結業績予想数値の修正(平成 27 年 4 月 1 日～平成 27 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益	1 株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	950,000	50,000	40,000	20,000	5.50
今回修正予想(B)	940,000	45,000	35,000	10,000	2.75
増減額(B-A)	△10,000	△5,000	△5,000	△10,000	
増減率(%)	△1.1	△10.0	△12.5	△50.0	
(ご参考)前期第 2 四半期実績 (平成 27 年 3 月期第 2 四半期)	916,019	57,184	46,152	42,115	11.59

2. 平成 28 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正(平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1 株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	1,950,000	125,000	95,000	60,000	16.51
今回修正予想(B)	1,900,000	95,000	65,000	25,000	6.88
増減額(B-A)	△50,000	△30,000	△30,000	△35,000	
増減率(%)	△2.6	△24.0	△31.6	△58.3	
(ご参考)前期実績 (平成 27 年 3 月期)	1,886,894	119,460	101,688	86,549	23.81

3. 修正の理由

当第 2 四半期連結累計期間の業績予想については、前回(平成 27 年 7 月 28 日)との比較において、景気減速の影響が大きい中国を中心に油圧ショベルの需要が想定を下回ることや、当社加古川製鉄所における一過性の生産トラブルによる生産量の減少、及びそれに伴う保全費などのコスト増加が見込まれることなどから、業績予想を下方修正しております。

通期の連結業績予想についても、上記のような状況に加え、主に海外関係会社の業績悪化が見込まれることや、鋼材生産の安定操業に向けて保全費を積み増していること、さらには、アルミ・銅事業部門において地金価格の下落に伴い在庫評価影響が悪化することが見込まれることなどから、前回の業績予想を下方修正しております。

なお、親会社株主に帰属する四半期ならびに当期純利益については、主に中国建設機械事業の関連会社の業績不振に伴う評価損失等を見込んでおります。

4. 平成 28 年 3 月期第 2 四半期(累計)個別業績予想数値(平成 27 年 4 月 1 日～平成 27 年 9 月 30 日)

	売上高	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前期第 2 四半期実績(A)	494,323	17,188	23,676	6.50
今回発表予想(B)	510,000	25,000	20,000	5.50
増減額(B-A)	15,676	7,811	△3,676	
増減率(%)	3.2	45.4	△15.5	

5. 平成 28 年 3 月期通期個別業績予想数値(平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

	売上高	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前期実績(A)	1,028,146	46,600	52,321	14.37
今回発表予想(B)	1,010,000	35,000	25,000	6.87
増減額(B-A)	△18,146	△11,600	△27,321	
増減率(%)	△1.8	△24.9	△52.2	

6. 前第 2 四半期個別実績と当第 2 四半期個別業績予想との差異及び前期個別実績と通期個別業績予想との差異の理由

当第 2 四半期個別累計期間の業績予想については、前年同期と比較して、アルミ圧延品の販売数量が増加したことや、エンジニアリング事業部門において大型還元鉄プラントを受注したこと、鉄鋼事業部門を中心にこれまでの設備投資によるコスト削減効果が順調に積み上がって来ていることなどから、売上高、経常利益ともに増加する見込みです。しかし、四半期純利益は、前年同期の繰延税金資産積み増しの影響がなくなることなどから、減少する見込みです。

通期の個別業績予想については、前期と比較して、鉄鋼事業部門及びアルミ・銅事業部門において、主原料・地金価格の下落に伴い在庫評価影響が悪化することや、機械事業部門において、競合環境の激化により採算が低下することなどから、売上高、経常利益ともに減少する見込みです。

また、前期の繰延税金資産積み増しの影響がなくなることなどから、当期純利益も減少する見込みです。

(注)上記の業績予想につきましては本資料の発表日現在において、入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後さまざまな要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

以 上